

# 「花火のまち大仙市」 移住・定住促進アクションプラン

～魅力あるまちづくりと移住・定住の促進～



平成29年3月

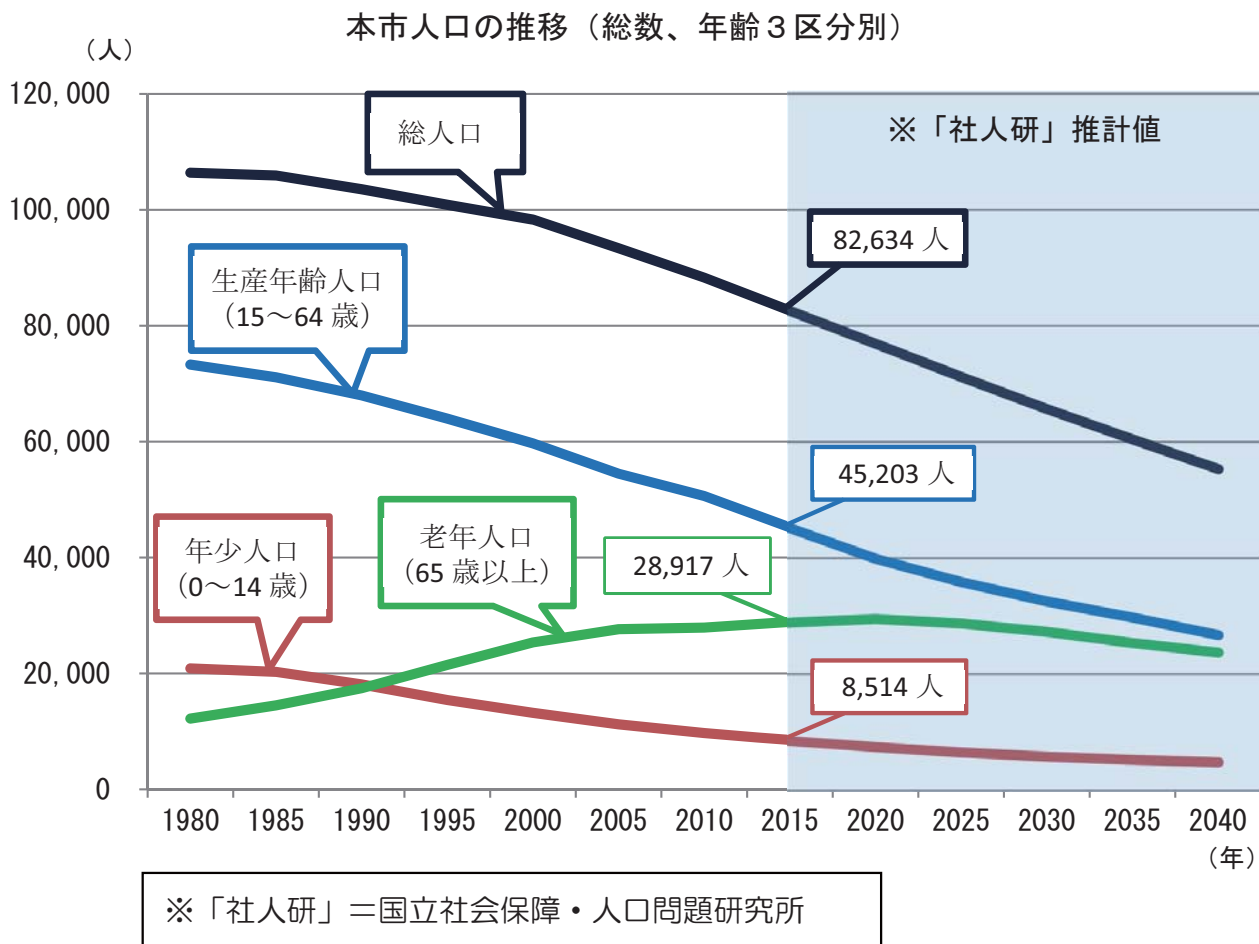
秋田県 大仙市

## 目次

1. 大仙市の人口動向 .....	1
(1) 人口の推移 .....	1
(2) 人口の自然増減・社会増減の推移 .....	2
2. 大仙市人口ビジョン・総合戦略などから見える課題 .....	3
3. アクションプラン策定の趣旨と位置づけ .....	4
4. 総合戦略における全庁的な推進体制 .....	6
5. 総合戦略に掲げる数値目標 .....	7
6. 総合戦略における取り組みの方向性 .....	9
7. アクションプランにおける取り組みの柱 .....	10
8. 具体的な取り組み .....	11
(1) 移住・定住の促進 ～首都圏等からの移住者の呼び込み～ .....	11
(2) 若者の移住・定住を促すAターン（Dターン）などの推進施策の展開 .....	13
(3) 移住者受入体制の充実 .....	16
(4) 交流人口の拡大 .....	20
(5) 楽しめる場の提供と魅力あるまちづくり .....	23
9. アクションプランの策定体制 .....	26
10. 大仙市移住・定住促進アクションプラン策定委員会名簿 .....	27

# 1. 大仙市の人口動向

## (1) 人口の推移



○ 総人口

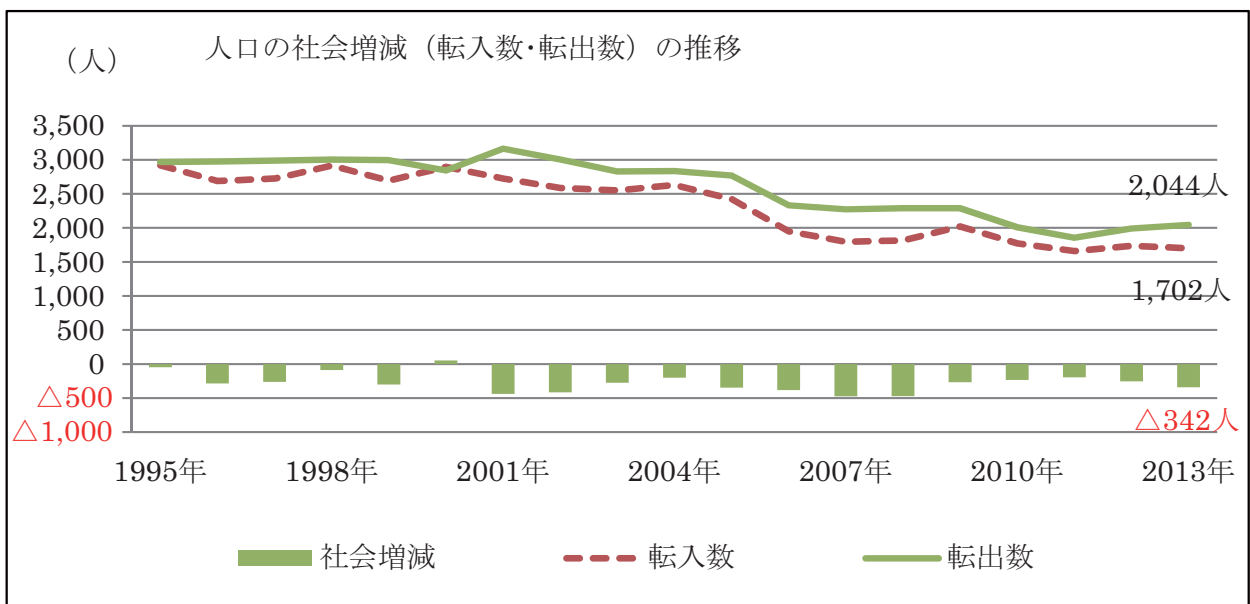
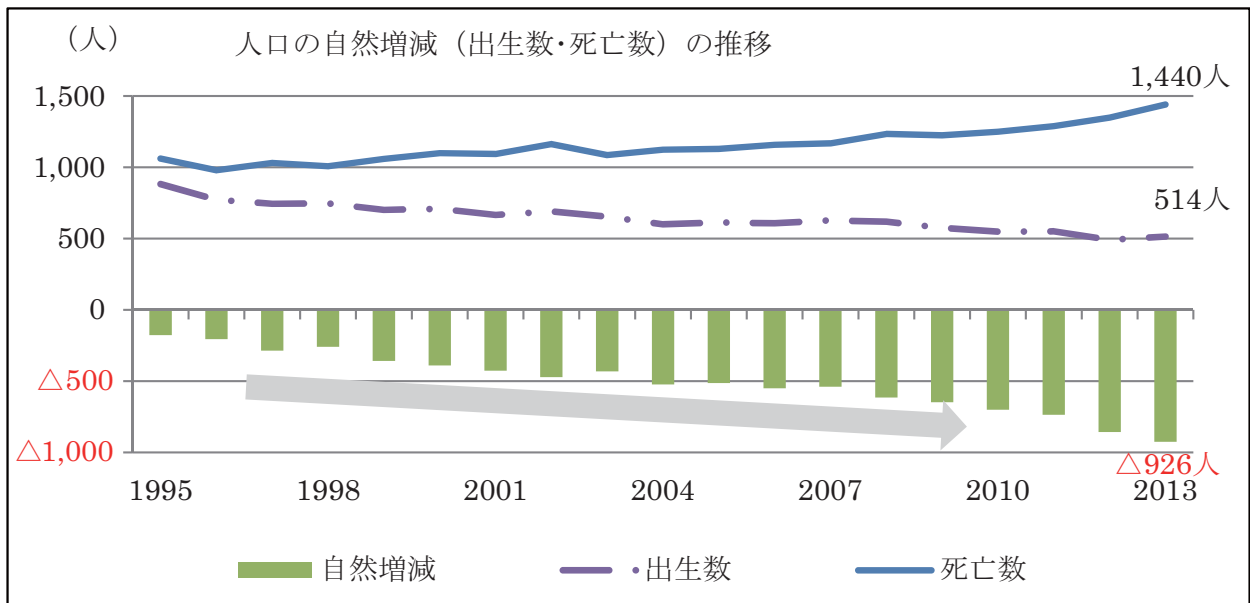
◆ 1980年頃から減少傾向にあり、2010年は8万8,301人、2015年以降においても減少の見込みです。

○ 年齢3区分別人口

◆ 年少人口（0～14歳）については1950年以降、生産年齢人口（15～64歳）についても1980年以降に減少が続いています。

◆ 老年人口（65歳以上）は増加していますが、2025年以降は減少の見込みです。

(2) 人口の自然増減・社会増減の推移



○ 自然増減


◆ 1995 年以降、自然減は年々拡大する傾向にあり、2013 年には▲926 人となっています。

○ 社会増減

◆ 2000 年以降、社会減の状態が継続し、2013 年は▲342 人となっています。


## 2. 大仙市人口ビジョン・総合戦略などから見える課題

人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示した「大仙市人口ビジョン」及び「市民アンケート」などから見える本市の課題は次のとおりです。




### 「ひと」に関する課題

- ・本市総人口は、ここ直近年間1,000人程度の減少が続き、死亡数が出生数を大幅に上回る自然減が拡大傾向にあります。推計では、2020年を境に高齢人口も減少に転じ、人口減少のスピードが加速します。



### 「しごと」に関する課題

- ・市民アンケートの結果では、就業支援を望む声が多く、安定した雇用の確保が重要課題です。また、低い賃金水準や、キャリアを活かせる職種の幅の小ささ等を定住へのデメリット要因とする声が多くあります。



### 「まち」に関する課題

- ・豊かな自然環境や安心な暮らしを主因に住みやすさを感じる一方で、買い物や公共交通の不便性、街に魅力のある空間が少ないといった点を不満とする傾向がみられます。また、移住に際しては、積雪の多さが不安材料となっています。

また、市の最上位計画として位置づけ平成28年3月策定した、第2次大仙市総合計画では、各種施策を推進していく上で重要となる4つのキーワードを次のとおり掲げており、それぞれに改善すべき課題があります。

<b>キーワード1</b>	<b>キーワード2</b>	<b>キーワード3</b>	<b>キーワード4</b>
少子化・人口減少対策	大仙らしさ（地域資源）の活用	地域の人づくり	だいせんライフの確立と発信
<b>【課題1】</b> ・人口減少のプロセス、減少後の人口構造 ・若者の地元定着 ・未婚化・晩婚化の改善	<b>【課題2】</b> ・農林業における担い手の育成 ・地場産業の強化 ・地域ブランドを活かした新産業の創出 ・魅力ある観光地づくり	<b>【課題3】</b> ・雪対策 ・交通システムの充実 ・地域コミュニティの再生 ・空き家対策	<b>【課題4】</b> ・魅力ある商業地と若者が楽しめる街づくり ・移住・定住の促進 ・交流人口の拡大と観光の振興

### 3. アクションプラン策定の趣旨と位置づけ

本市では、急激・過度な人口減少と少子高齢化の進行に歯止めをかけるとともに、将来にわたって活力ある地域を維持していくために必要な施策等をまとめた「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（以下「総合戦略」）を策定し、具体的な取り組みを進めることとしています。

この総合戦略では、「2. 大仙市人口ビジョン・総合戦略などから見える課題」にある本市の様々な課題を踏まえ、第2次大仙市総合計画の具体的施策を推進するうえで設定している4つのキーワードを基本的視点とし、次のとおり基本目標を定め、それぞれに具体的な施策を設定しています。



今回策定するアクションプランは、この中の基本目標2で掲げる「魅力あるまちづくりと移住・定住の促進」を達成するため掲げる次の6つの施策の中で、本市への移住及び定住促進に関連した取り組みの具体的な行動計画として位置づけます。

また、このアクションプランでは、大仙市の魅力を効果的に発信する方策や、地元を離れた方がもう一度ふるさと大仙に戻ってくるための取り組みなど、所要の施策を盛り込み、効果的に各種取組を推進していくと共に、移住・定住促進に向けた体制の整備に取り組んでいきます。

【**基本目標2**「魅力あるまちづくりと移住・定住の促進」を達成するために掲げる施策】

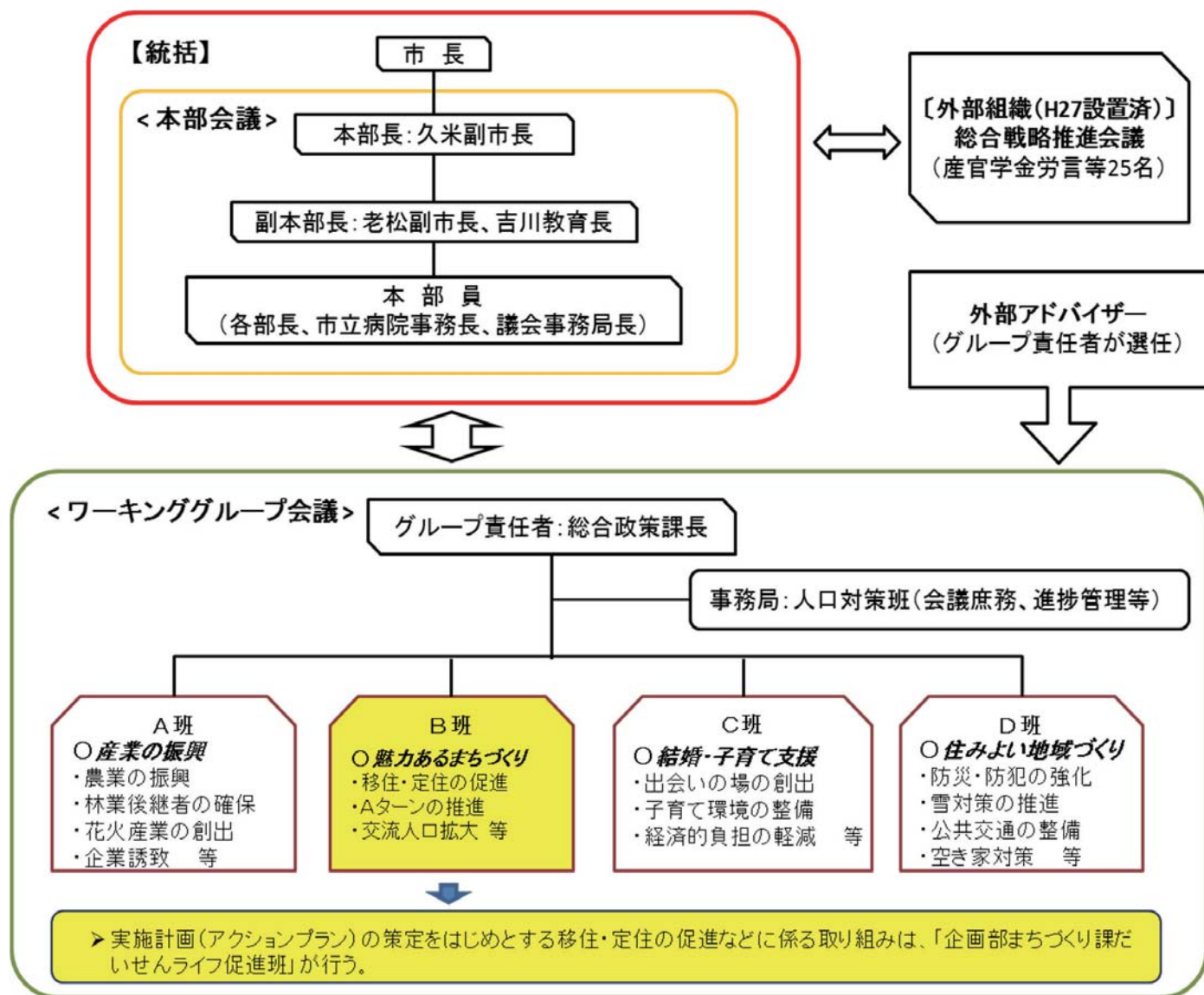
<p>1.移住・定住の促進 ～首都圏等からの移住者の呼び込み～          (ア)移住・定住者の生活基盤整備の支援          (イ)「だいせんライフ(暮らし)」のPR促進          (ウ)空き家を利活用した移住者への住居提供システム構築          (エ)移住希望者の受入体制の充実</p>
<p>2.若者の移住・定住を促すAターン推進施策の展開          (ア)大仙市奨学資金貸与制度の見直し          (イ)成人式の活用等によるAターンの推進</p>
<p>3.楽しめる場の提供と魅力あるまちづくり          (ア)大曲ヒカリオを核とした中心市街地の新たなにぎわいの創出          (イ)道の駅機能の充実による大仙の魅力の発信</p>
<p>4.交流人口の拡大          (ア)花火関連施設等を核とした観光ルートの提供          (イ)地域ブランドを前面に打ち出した“食する観光”の推進          (ウ)スポーツを通じた交流人口の拡大</p>
<p>5.地域資源の保存・継承と発信          (ア)花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり ～花火産業構想～          (イ)文化財・歴史遺産の保存継承と観光資源としての活用</p>
<p>6.市内の特色ある花火大会と日本の文化・歴史・自然体験を組み合わせたインバウンド戦略 ～台湾・タイ・韓国等からの富裕層の呼び込み～          (ア)外国人観光客に対応した花火大会の運営          (イ)市内の特色ある花火大会と観光資源を起点とした東北観光ルートの提供          (ウ)ホテル等宿泊施設の誘致</p>

#### 4. 総合戦略における全庁的な推進体制

大仙市では「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の実現に向けた取り組みを推進し、人口問題に関する新たな課題に柔軟かつ積極的に対応するため、「大仙市人口問題対策プロジェクト会議」を立ち上げ施策の企画・立案に取り組むこととしています。

この会議は、「本部会議」と「ワーキンググループ会議」に分かれ、部長級職員の豊かな経験と、若手職員による行政の枠組みにとらわれない自由で豊かな発想により、既存事業のブラッシュアップ並びに新規事業の発掘を行うこととしています。

このなかで、実施計画（アクションプラン）の策定をはじめとする移住・定住の促進などに係る具体的な取り組みは、平成28年度に新設した「企画部まちづくり課だいでんライフ促進班」が行うこととしています。





## 5. 総合戦略に掲げる数値目標

「大仙市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、まちのにぎわい創出と交流人口の拡大により若者等の定住を促進するとともに、田園交流都市の魅力を伝え、首都圏等からの移住者の呼び込みやAターン推奨により、Aターン就職者数250人（5か年）及び本市への移住者数20人（5か年）を目標としています。

基本目標	数値目標（H31/5か年累計）
1. 地域資源を活かす産業の振興	新規雇用創出数 400 人 新規就農者数 100 人
2. 魅力あるまちづくりと移住・定住の促進	Aターン就職者数 <sup>(※1)</sup> 250 人 移住者数 <sup>(※2)</sup> 20 人
3. 大仙の明るい未来へ ～子どもの誕生を地域で応援～	合計特殊出生率 1.39(H24)→1.52(H31) 子育て支援の満足度 33.6%(H26)→52.0%(H31)
4. 住みよいまち、心豊かに暮らせる地域づくり	住みやすさの満足度 80%(H31) 社会活動・地域活動に参加した人の割合 68%(H31)

(※1) Aターン就職者数については、ハローワーク大曲（大曲公共職業安定所）管内の数値です。

(※2) 総合戦略及びアクションプランにおける移住者数の定義については次のとおりです。

移住者数とは、秋田県が委託している「NPO法人秋田移住定住総合支援センター」に移住希望登録をして本市へ移住した方のほか、同じく秋田県が東京交通会館内に設置する「あきたで暮らそう！Aターンサポートセンター」からの情報、各種移住相談会における相談者のなかで、実際に大仙市への移住を確認した方の人数としています。

また、上記基本目標の「2. 魅力あるまちづくりと移住・定住の促進」を達成するため掲げる施策の中で、本市への移住及び定住促進に関連した取り組みに係る数値目標は次のとおりとなっています。

### (1) 移住・定住者の生活基盤整備の支援

数値目標	目標値（H31）
住宅リフォーム支援事業を活用した市外からの移住件数	10 件（5 か年累計）

### (2) 「だいせんライフ（暮らし）」のPR促進

数値目標	目標値（H31）
移住窓口への相談件数	40 件（5 か年累計）

(3) 空き家を利活用した移住者への住居提供システム構築

数値目標	目標値 (H31)
空き家バンク登録数	50 件 (5 か年累計)

(4) 移住希望者の受入体制の充実

数値目標	目標値 (H31)
移住体験 (お試し移住) 提供事業実施回数	8 回 (5 か年累計)

(5) 花火関連施設等を核とした観光ルートの提供

数値目標	目標値 (H31)
通年型観光商品開発数	4 ルート (5 か年累計)
事業実施による観光入込客数	274 万 7 千人

(6) 地域ブランドを前面に打ち出した“食する観光”の推進

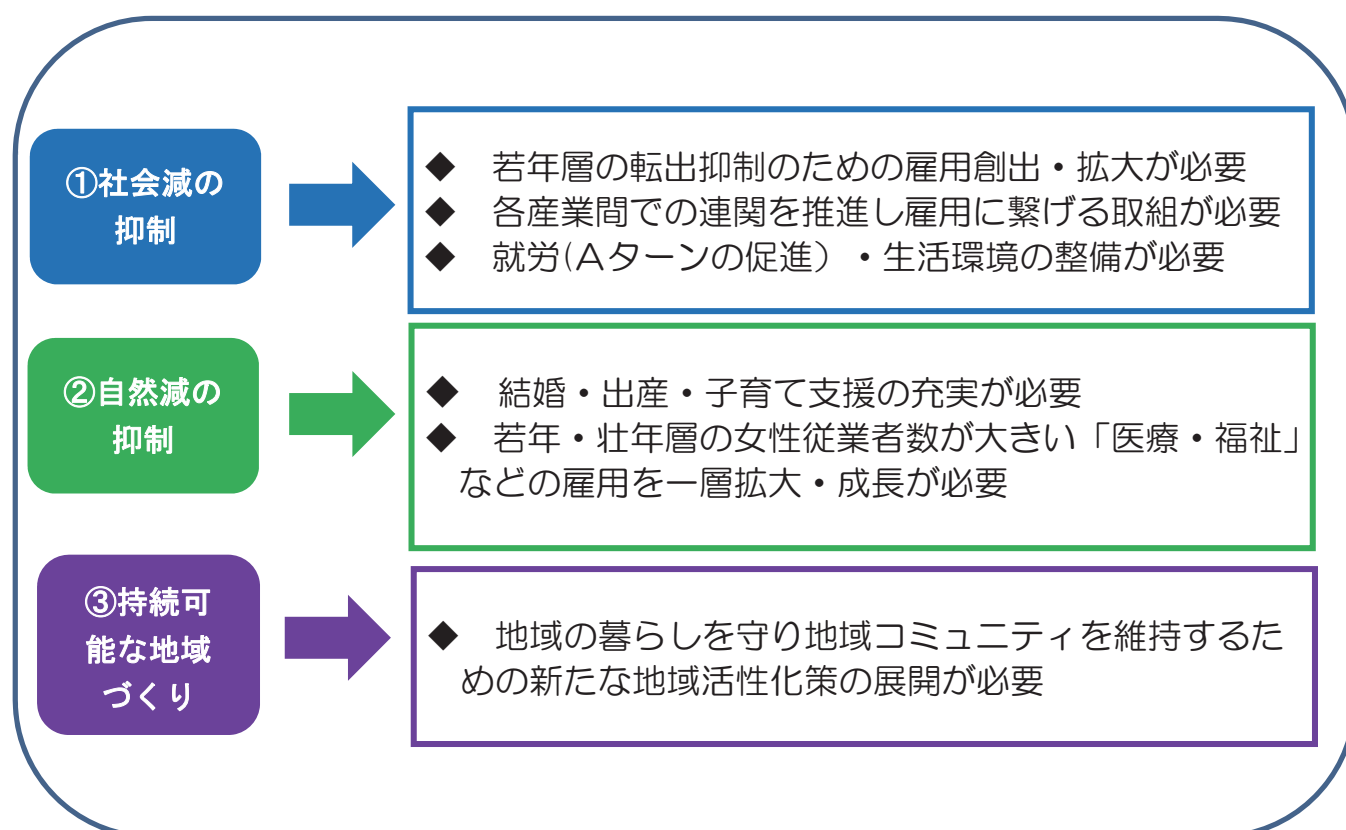
数値目標	目標値 (H31)
地域ブランドとしての開発商品数	10 商品 (5 か年累計)

(7) 花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり ～花火産業構想～

数値目標	目標値 (H31)
(仮称)花火伝統文化継承資料館の年間利用者数	3 万人

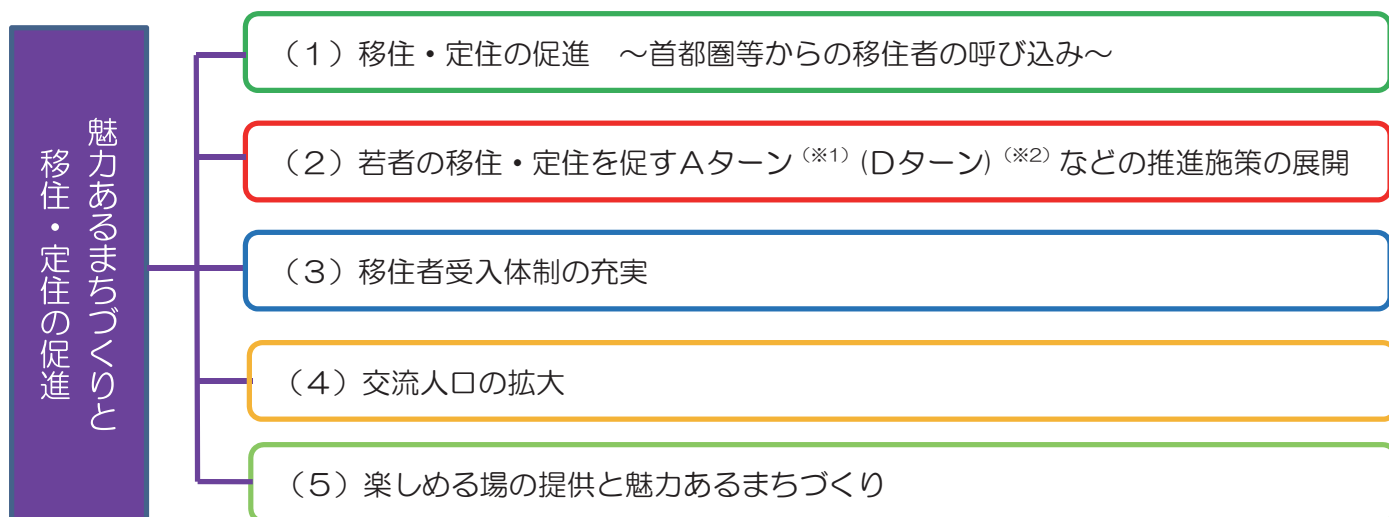
## 6. 総合戦略における取り組みの方向性

日本全体が人口減少の局面を迎え、秋田県においては全国最大のペースで減少が進んでいる中において、本市において、人口減少を短期的かつ劇的に抑制・改善することは難しい状況にあります。秋田県が目指すべき方向性も鑑みながら、今後も本市が持続的に発展し、市民一人ひとりが「ここをつなぎ希望にみちた未来を創造」できる地域社会となるよう、次の3つの方向性に基づく取組を進めていく必要があります。



## 7. アクションプランにおける取り組みの柱

実施計画（アクションプラン）を策定するにあたり、「総合戦略」の内容を勘案し、取り組みの柱を次のとおり掲げ、優先順位をつけながら効果的に魅力あるまちづくりと移住・定住の促進を図っていきます。



(※1) Aターンとは、秋田県へのUターン・Iターン・Jターンの総称です。秋田出身の方も県外出身の方もみんな（ALL）秋田（Akita）で暮らそうとの願いをこめた、秋田県独自のキャッチフレーズです。

(※2) Dターンとは、大仙市へのUターン・Iターン・Jターンの総称です。「だれもが」「だいすきな」「だいせんで」暮らそうとの願いをこめ、それぞれの頭文字『D』と、「大仙市」の頭文字『D』を掛け合わせた、大仙市独自のキャッチフレーズです。

## 8. 具体的な取り組み

### (1) 移住・定住の促進 ～首都圏等からの移住者の呼び込み～

#### ①「だいせんライフ」のPR促進

##### (ア) 移住プロモーション動画の作成及び活用による移住促進【H29年度～】

大仙市への移住・定住を図ると共に、知名度の向上を目的としたプロモーション動画を、地元高校の放送部や地域団体などと連携して作成します。

動画は、総務省が運営する「全国移住ナビ」をはじめ、市ホームページ、首都圏でのイベントなどで放映します。

内容は、高校生のアイデアを最大限活かし、既に移住している方へのインタビューや地域住民の声、自然、歴史、文化、農産物などの地域資源を紹介し、大仙市でしか経験できない贅沢な環境を、映像を通して発信していきます。

作成にあたっては、「プロモーション動画作成プロジェクト委員会（高校生・地域団体・行政）」を設置し、地域プロモーション研修会などを開催しながら、移住者が何を求めているのか、また、地域の何を発信するのが効果的かなど、移住・定住促進に向けて地域住民と一緒に学び作成します。

##### (イ) 移住定住フェイスブック・ブログによる情報発信【H29年度～】

大仙市で暮らすために役立つ情報、先輩移住者の声、地域行事の記事、教育・子育て・就業情報、最新の支援制度の紹介などを、フェイスブックや移住情報発信サービス「田舎の暮らし方ブログ」を通じて発信をします。作成は、地域おこし協力隊、移住コーディネーターが行います。

##### (ウ) ガイドブックを利用した移住希望者への情報提供【H29年度～】

平成28年度に作成する、大仙市移住ガイドブックを、毎年度、最新情報を盛り込んで更新・増刷し、県が設置する首都圏の移住相談窓口、各種移住フェア・相談会や、Anbee大曲をはじめとする交流拠点となる施設で配布します。

##### (エ) 各種イベント・移住相談会等でのPR促進【H29年度～】

JOIN（移住・交流推進機構）をはじめ、ふるさと回帰支援センターなどのイベント・移住相談会に積極的に参加するほか、市主催の移住相談会を、東京八重洲「移住・交流情報ガーデン」などで開催し、「だいせんライフ」のPR促進及び移住相談を行います。

各種イベント・移住相談会では、「鳥の声、虫の声、風の音が聞こえる!」、  
「四季の変化を感じながらのびのびと生活できる!」、「自宅の畑で野菜が作れる!」、  
「冬には雪だるまが作れる!」など、私たちにとってはごく当たり前の  
日常と思えることが、幸せで贅沢な生活環境であることを、市外・県外にも広  
くPRしていくことで「大仙ファン」を創出し、本市への移住・定住の促進を  
図ります。

また、合併前の旧市町村毎に設けている「首都圏ふるさと会」の総会など  
において移住ガイドブックを配布し、退職後のふるさと回帰をPRしていきます。



## (2) 若者の移住・定住を促すAターン（Dターン）などの推進施策の展開

### ①若者のAターン（Dターン）の推進

#### (ア)「大好きな『だいせん』に帰ろうプロジェクト」の推進【H29年度～】

- a) 学校の卒業式や成人式などに、県内の企業情報の紹介や「ふるさと回帰」に関する一言を添えたパンフレットを配布し、将来地元に戻ってくる意識の醸成を図るとともに、学校教育をはじめ様々な機会を通じて「ふるさと教育」を推進し、郷土に対する愛着を市民全体で向上させていきます。
- b) 子どもの頃から、地域の伝統芸能や祭りなどの機会を通じて世代間交流を図り、地域の現状と学びを深め、地域を知ることにより「愛郷心」が生まれることから、これまで以上に集落支援員の活動や伝統的な地域行事に対する支援に力を入れ、世代間交流を促進し、地域住民と共に学び成長できる環境づくりを進めます。
- c) 地域行事への参加や、企業・施設等での見学・体験など、地域と関わる活動を通じてふるさとを愛する心を育て、地域の将来を担う人材の育成を目的に実施している「大仙ふるさと博士育成事業<sup>(※)</sup>」についても、若者の定住という観点から、集落支援員や地域おこし協力隊の活動の一つとして、各地域に積極的な周知を図っていきます。

(※) 行事参加や職場体験など地域と関わる活動をした児童生徒にポイントを与え、一定数に達すると「大仙ふるさと博士」として認定する事業。

### ②起業・創業支援

#### (ア) 創業支援による新たな雇用創出【H29年度～】

大仙市内で創業を目指す方に対し、その創業や新規雇用に要する経費の一部を助成し、新たな雇用の創出と地域経済の活性化を図ります。

平成29年度からは、これまでの創業支援を見直し、県外からの移住者を含め、雇用を創出する創業や地域経済を発展させると見込まれる創業等を行う方に対し手厚い支援を行います。

#### (イ) だいせん起業支援ガイドブックの作成及び活用【H29年度～】

移住者が希望する職種が少ないという現状を踏まえ、起業・創業に関する支援を強化するため、移住から起業・継業までのプログラムを構築すると共に、

地域課題の解決や地域資源を活用したローカルベンチャー立ち上げの視点などを盛り込みながら、移住者の要望に沿った対応ができるよう、起業のプロセスをまとめたガイドブックの作成など相談体制の整備を行います。

### ③就業施策の展開

#### (ア) きめ細やかな職業紹介【H29年度～】

厚生労働省の職業紹介事業制度の届け出など、職業紹介できる体制を整備し、移住希望者の就業相談にきめ細やかな対応を行っていきます。

また、地域密着型の多様な仕事を掘り起こし、「暮らしの場」としての情報と組み合わせて紹介する県の事業と連携し、市が把握する就業情報と併せ相談者への事業紹介と情報提供の強化を図っていきます。

#### (イ) インターンシップ等就職活動の支援【H29年度～】

市内企業へインターンシップをする大学生や、就職活動のため訪れた方への交通費及び市内の宿泊施設を利用した場合の宿泊費用の一部を助成します。

#### (ウ) 花火産業構想における花火創造企業の設立と花火玉製造工場の建設による雇用の創出と地域の活性化【H29年度～】

地域経済並びに業種によっては雇用情勢が依然として厳しい状況にある今、地域活力の源泉となる産業の育成・振興、都市としての個性や魅力づくりがこれまで以上に求められています。

大仙市花火産業構想は、こうした課題を解決するひとつの“解”として、『大曲の花火』が有するブランド力を最大限活かし、製造業や観光、商業、農業、文化、教育など様々な分野にまたがる発展軸を形成して地域の活性化を図ります。



この構想では、「日本屈指の花火製造・打上技術を基盤とする新たな花火生産拠点づくり」を施策の一つとして掲げており、花火玉製造、イベントサポート、観光の各部門で構成される新法人「花火創造企業」を民間出資で設立し、



大仙市を「花火の総合拠点」とするとともに、「花火」を活かした内発型産業の育成に向けた取り組みにより通年観光の実現を図ります。

この花火創造企業が建設する花火玉製造工場は、各工室（配合造粒棟、仕込み棟等）、乾燥室、火薬庫等を備え、就業50人を想定し新たな雇用の創出と地域経済活性化を図ります。

また、日本初となる小型の汎用花火玉製造に特化した工場は、国内の花火業者を主な売り先とし、輸出の可能性も視野に入れており、「メイド・イン・大仙」の花火玉の販売を展開します。



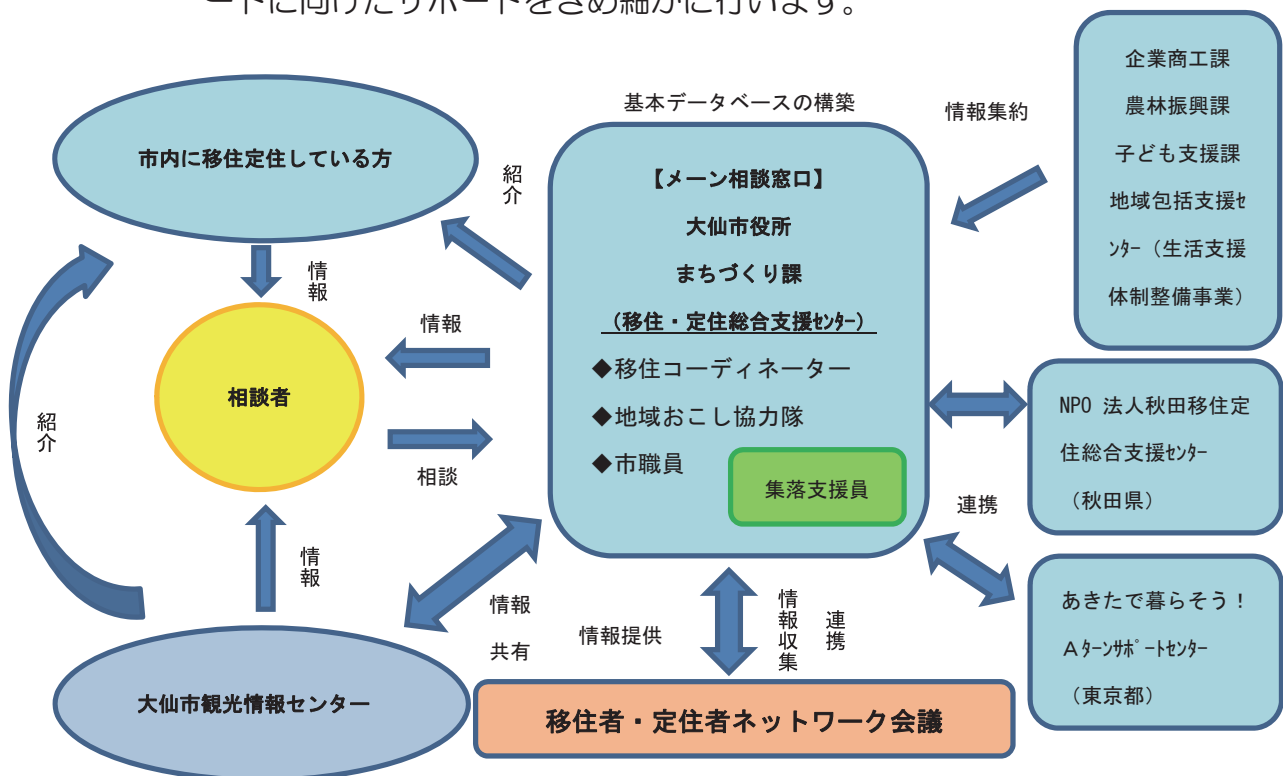
### (3) 移住者受入体制の充実

#### ① ワンストップ窓口の機能強化

##### (ア) 相談窓口の設置と移住コーディネーター配置による相談体制の強化

【H29年度・H30年度】

- a) 移住・定住に関する必要な情報を必要なだけ得られる環境を整備するため、大仙市役所まちづくり課をメイン窓口とした、移住・定住促進を専門に担当する「大仙市移住・定住総合支援センター」を設置し、移住者ネットワーク会議と連携を図りながら移住・定住促進に取り組んでいきます。
- b) 「大仙市移住・定住総合支援センター」では、専従職員と地域おこし協力隊を配置し、移住希望者の情報や住居情報など移住・定住に関するデータベースを作成・活用しながら、集落支援員と連携して移住者の相談受入体制を整えます。相談体制の安定と共に移住コーディネーターを委嘱・配置し、相談体制の強化を図っていきます。
- c) 大仙市の玄関口を代表する大曲駅の構内にある大仙市観光情報センターから、これまでの観光情報に加え、まちづくり課（移住・定住総合支援センター）からの移住・定住に関する情報も併せて発信し、実際に移住して起業・就業されている移住者と連携しながら相談体制の充実を図っていきます。
- d) 大仙市移住・定住総合支援センター職員が各支所と連携し、移住準備、自治会・町内会長の紹介、地域の特性、ゴミ収集に関することなど、生活スタートに向けたサポートをきめ細かにいきます。



## ② 空き家の活用推進

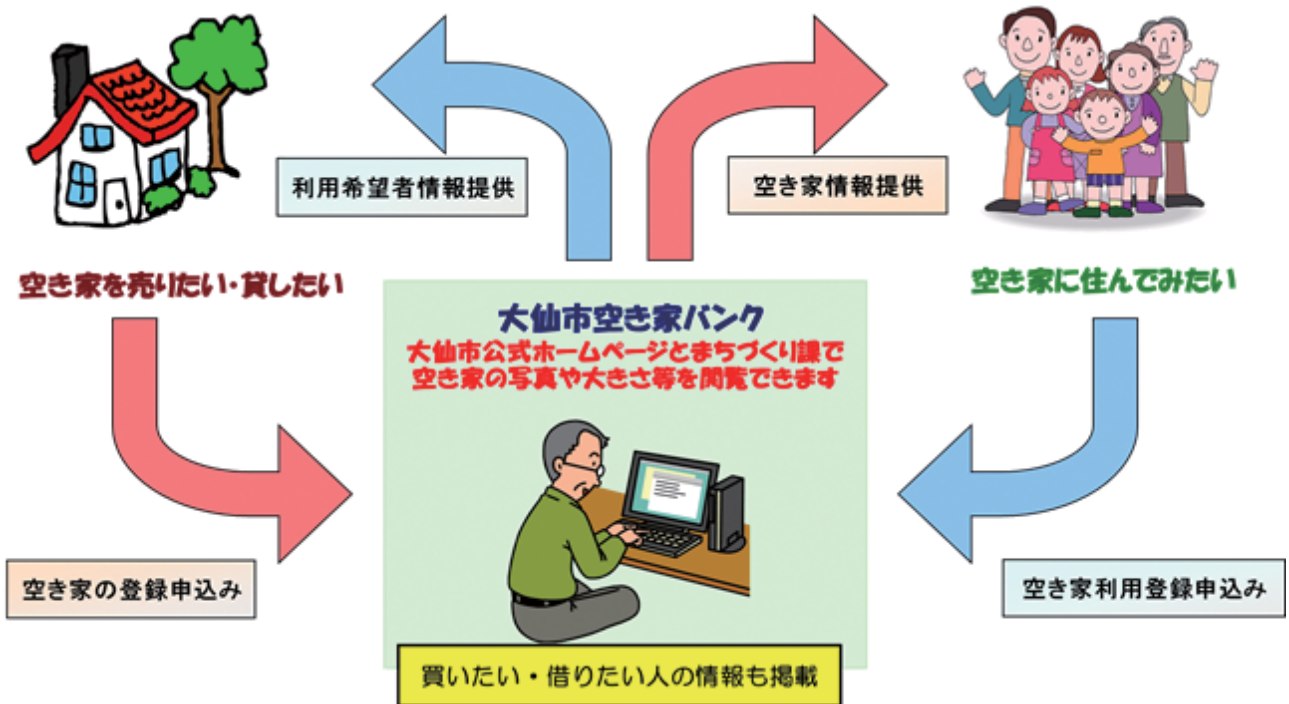
### (ア) 画家・芸術家移住プロジェクトなどによる空き家の利用促進【H29年度～】

- a) 空き家の利用促進を図るため、国内外の画家・芸術家が居住兼アトリエとして活用していただけるよう、空き家改修に関する補助制度の紹介や物件の相談などを行っていきます。
- b) 移住者の受入態勢の整った地域を、画家・芸術家が集う「芸術のまち」としてモデル化し移住者の増加を目指してPRしていきます。
- c) 空き家の改修には、市の住宅リフォーム支援事業のほか、国や県の支援制度などの活用を促進します。

### (イ) 空き家バンクの利用者向上への取り組み【H29年度～】

現在は、空き家バンクに登録している、売りたい・貸したい物件の情報のみをホームページで公開していますが、更なる利便性の向上を図るため、一戸建て住宅を買いたい人・借りたい人の要望も公開し、宅建協会と連携しながらマッチングの強化と利用者の向上を図ります。

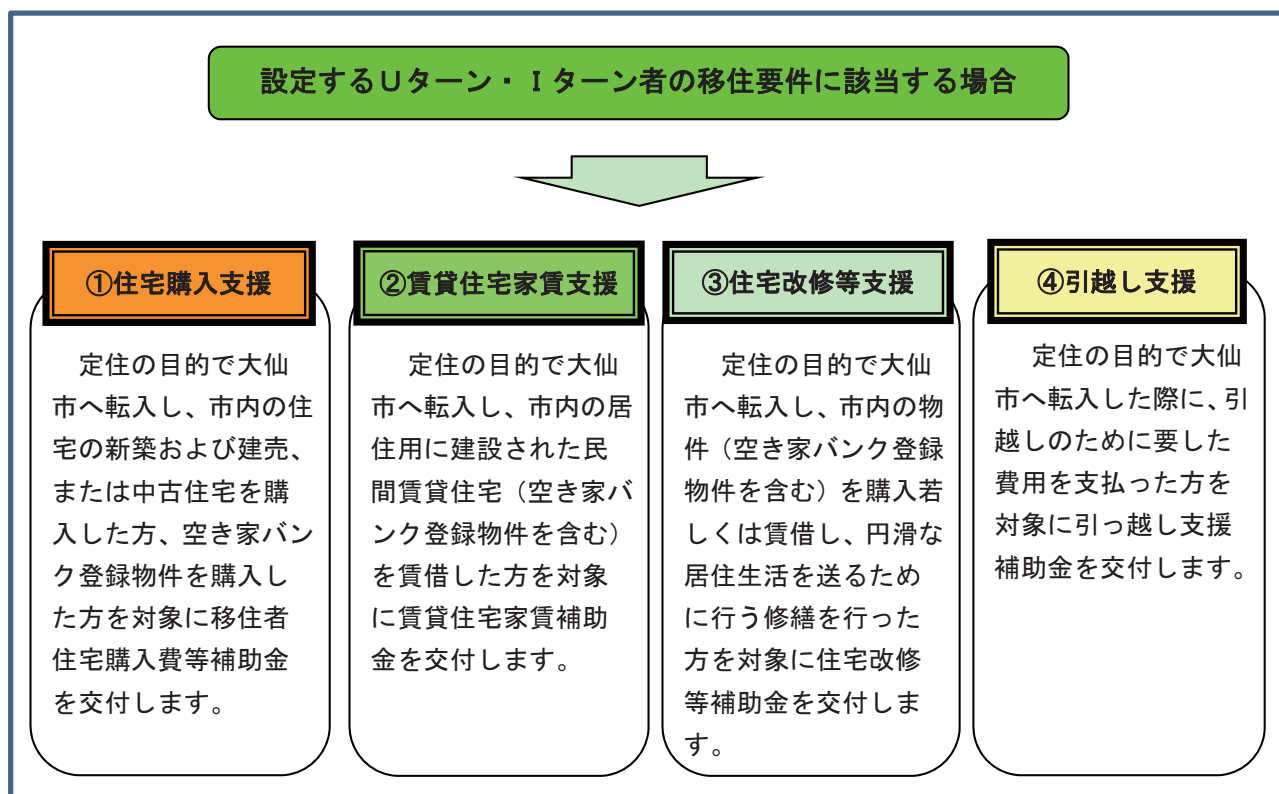
また、空き家をリノベーションする際、建物のどの部分を改修し、どれくらいの工事費が見込まれるのかを専門家がアドバイスする支援も併せて行っています。



### ③移住者向け住宅支援

#### (ア)「だいせんライフ」移住者向け住宅支援パッケージ事業の検討と移住者の居住環境整備の支援【H29年度～】

定住の目的で大仙市へ移住し、市内の住宅を新築又は購入した方、民間賃貸住宅を賃借した方、空き家バンク登録物件を購入・賃借した方、また、転入後円滑な居住生活を送るために行った家屋の修繕若しくは改修、引っ越しのために要した費用を支援する事業を実施します。



### ④移住者同士のネットワーク構築

#### (ア)『『だいせんライフ』移住者・定住者ネットワーク会議』設立による移住者同士及び移住者と地域住民の交流【H29年度～】

移住促進に関するマーケティングをはじめ、移住者同士の交流、移住者と地域住民との意見交換、課題の発見などを目的としたネットワーク会議を設立し、情報収集機関としての役割を担うと共に、課題の解決を図っていく仕組みをつくります。

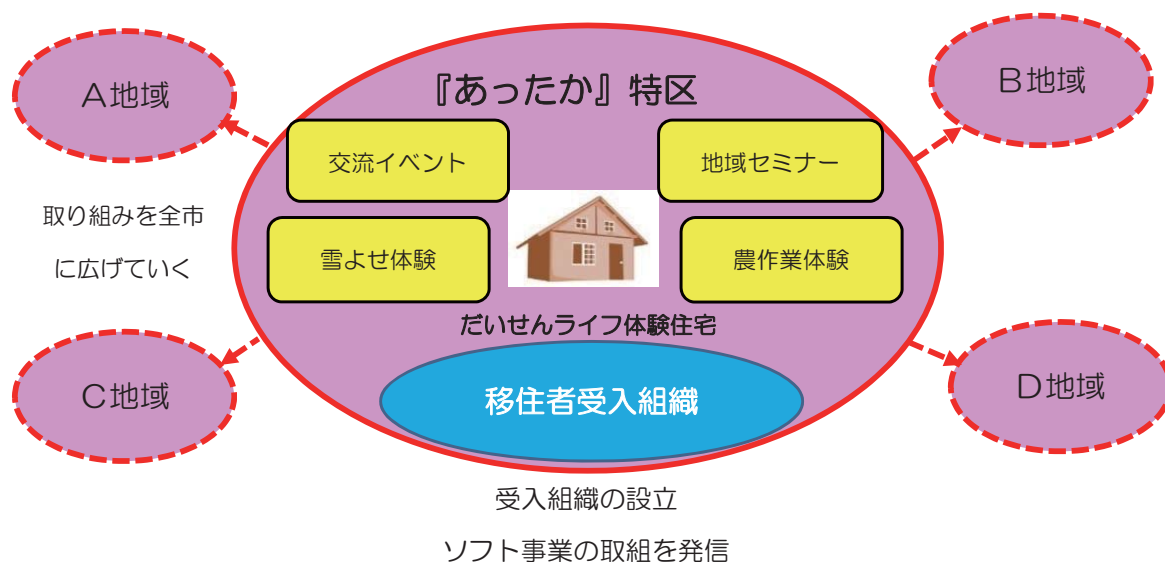
## ⑤お試し移住体験の実施

### (ア) いつでも「だいせんライフ」移住体験応援事業による見学・体験の受け入れ 【H29年度～】

新設する「移住・定住総合支援センター」において、移住希望者向けの数種類の市内見学コース（交通、医療、子育て、教育、福祉、自然、レジャー）、体験プログラムなど移住希望者の要望に応じて設定し、いつでも集落支援員や地域おこし協力隊などが一緒に市内を案内します。また、参加者へ助成金を交付します。

### (イ) 「だいせんライフ」体験住宅事業による暮らし体験【H30年度～】

- a) 移住の促進には、まず大仙市を訪れて、暮らしを体験し、地域住民とふれあい、大仙市を好きになって「縁」を感じてもらうことが大切であることから、空き家をリノベーションして「だいせんライフ体験住宅」とし、農作業体験や冬期間の生活など、四季を通じた体験プログラムを同時に提供します。空き家のリノベーションに係る費用については、「ふるさと納税」や、国、県の支援制度などの活用を検討します。
- b) 市内の移住者受入に前向きな地区を「移住者受入『あったか』特区」として選定・モデル化し、お試し移住が行える住居の設置を検討します。
- c) 移住者の受け入れには、最初の段階で受入側の地域住民の合意形成を整えておくことが重要であることから、『あったか』特区では、地域住民による移住者受入支援組織の設立を目指します。
- d) 『あったか』特区では、地域コミュニティを大切にしながら、移住コーディネーターや地域おこし協力隊と連携し、移住体験や交流イベントの開催、地域の習慣・地域資源の紹介セミナーなどのソフト事業を通して地域住民と交わりやすい環境をつくり出し、その取り組みを全市に広げていきます。



#### (4) 交流人口の拡大

##### ①花火産業構想における花火関連施設等を核とした観光振興

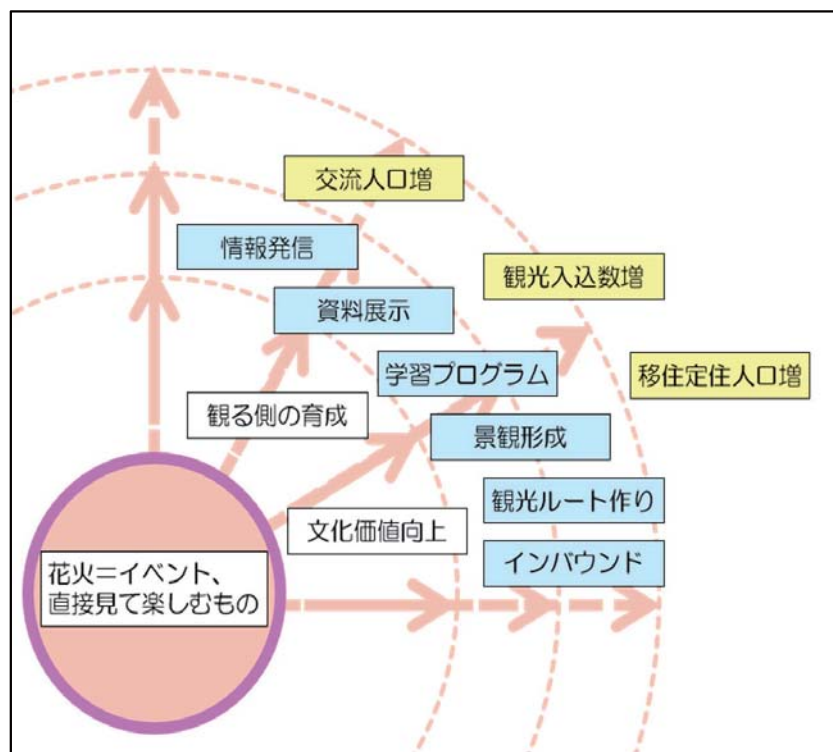
##### (ア) (仮称)花火伝統文化継承資料館の建設と観光ルート構築【H30年度～】

大仙市花火産業構想では、「花火の文化的価値を高め、継承し、広く示す拠点づくり」が施策の一つとして掲げられており、具体的な事業として、(仮称)花火伝統文化継承資料館の建設が進められています。

大仙市は全国花火競技大会「大曲の花火」の開催地として全国的に知られており、「大曲の花火」以外でも毎月花火が打ち上がり、また市内に花火会社から社存在する「花火のまち」です。ただし、本大会時に観光客が過度に集中していることが課題となっており、本番の花火を見に来られない方々も「花火」を楽しみ、体験できる受け皿の整備が必要となっています。

そこで、「花火＝イベント、直接見て楽しむもの」という概念を超え、「観る側の育成」「文化価値の向上」により裾野拡大を図り、本市と日本の花火の持続的発展につなげることを目指し建設を進めています。

これにより、「大曲の花火」の知名度を活かした経済波及効果を高めるため、観光誘客の広域的な分散化、市内宿泊率の向上、観光ルートの構築による通年観光が見込まれ、交流人口の拡大に繋がっていきます。



## ②地域ブランドを全面に打ち出した食の提供

### (ア) さけ・杜仲豚等地域の食材を使った新しい加工食への取り組み

【H29年度～】

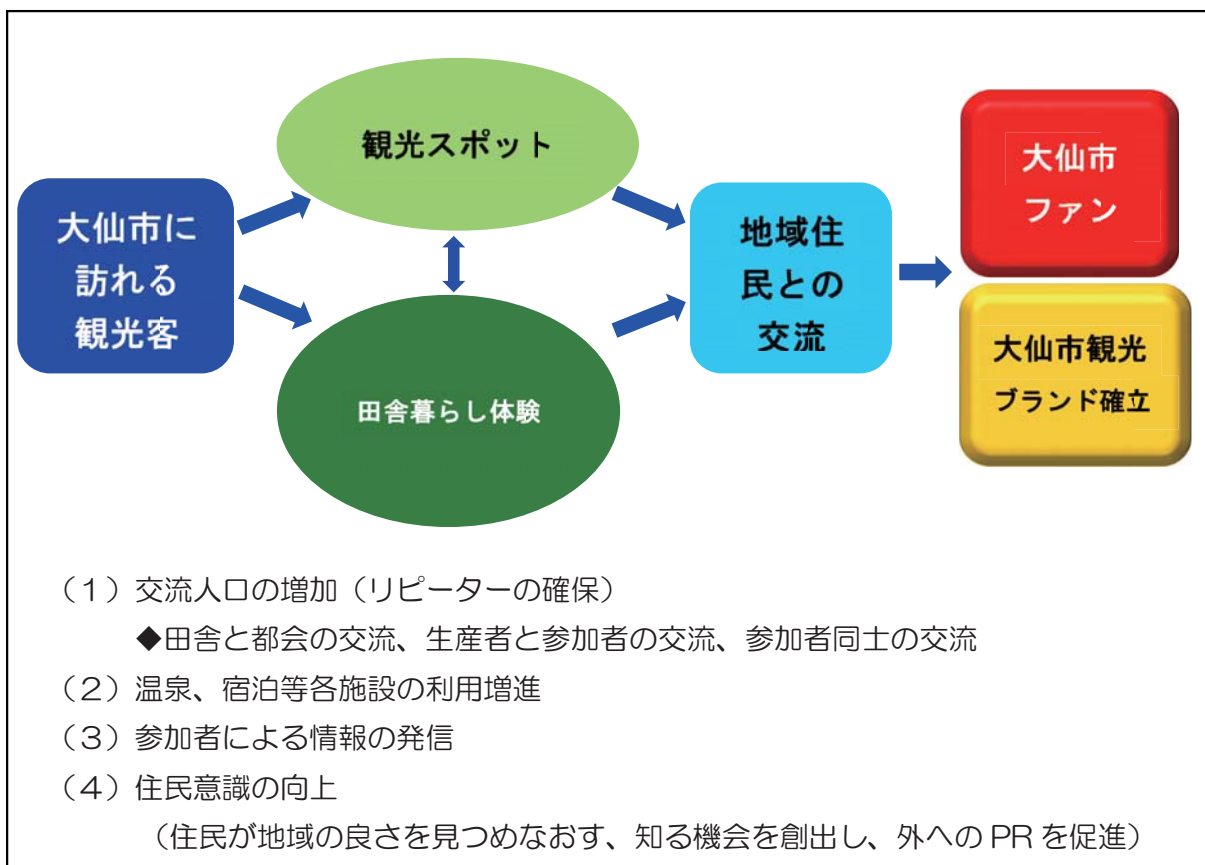
玉川に遡上するさけをはじめ、イワナ、杜仲豚など地域の食材を使った新たな加工食を開発します。

これをご当地グルメとして県外にPRすることにより、交流人口の拡大や販路の拡大による地域活性化を図ると共に、製造に携わる方の雇用につながることを期待されます。

## ③大仙市の魅力PR

### (ア) 「大仙市全体をPRするための」観光モニターツアー実施による大仙市ファンの創出【H29年度～】

「観て」「食べて」「飲んで」「泊まって」「地域の人と交流したり、体験したり」を提供し、1年を通して大仙市に人を呼び込む観光ツアーを市と業者が連携して実施し、交流人口の拡大を図ります。ツアーに参加していただくことにより、大仙市民の人の良さ、感動、思い出、記憶を持ち帰っていただき、大仙市ファンを増やすことが期待できます。



### 【ツアー内容】

- ① (6月) 1泊2日で橿岡さなぶり酒花火ツアー
  - ・観る 『橿岡さなぶり酒花火』
  - ・交流 花火会場にて地域の民謡や踊り、ミニライブ、出羽鶴のふるまい酒、屋台を堪能
  - ・体験 花火工場見学と模型作り体験、南外そば打ち体験か橿岡焼工房体験
  
- ② (7月) 1泊2日で花火観賞と自然体験
  - ・観る 『協和七夕花火』
  - ・交流 美山湖ダムで釣った魚でバーベキュー
  - ・体験 美山湖ダムでカヌー体験と魚釣りで地元住民との触れ合い  
重郎左衛門農園でじゅんさいやブルーベリーの摘み取り
  
- ③ (10月) 1泊2日で花火と史跡と自然を満喫
  - ・観る 『大曲の花火 秋の章』、史跡(払田柵跡・旧池田氏庭園)、酒蔵(刈穂)
  - ・交流 地元食材をふんだんに使った地元住民との大人のなべっこ遠足、餅の館
  - ・体験 花火工場見学と模型作り体験、餅つき体験
  
- ④ (2月) 1泊2日で雪国の味覚と文化に触
  - ・観る 『太田火まつり』(歓迎花火、プライベート花火)、酒蔵(秀よし)
  - ・交流 火まつりでの小正月行事参加、餅つき
  - ・体験 紙風船あげ、雪中貯蔵野菜の収穫



## (5) 楽しめる場の提供と魅力あるまちづくり

### ①定住に向けたまちづくりの構築

#### (ア) 大曲駅前施設（大曲ヒカリオ・Anbee大曲）の活用による楽しめる場の創出と賑わいが生まれる環境の整備【H29年度～】

定住を促進するための取り組みとして、大曲駅前の活性化を図るため、大曲ヒカリオ広場・Anbee大曲を次のように活用し、楽しめる場の創出と賑わいが生まれる環境を整備します。

- a) ヒカリオ広場にイス・テーブルの設置など、語らいの場や飲食スペースとして活用できる環境を整備します。
- b) プロジェクタによる常設映写設備を活用し、野外イベントを企画します。
- c) プロジェクタの活用方法も含め、ヒカリオ広場活用促進に向けた民間団体を立ち上げ、年間を通したイベントの開催を企画・運営していきます。
- d) ヒカリオ広場において、各地域のお宝披露イベントや、商工団体、農協などが連携した「ヒカリオ市場」などを検討します。
- e) 大仙市内の全ての高校が集結し、「大曲ヒカリオイベント実行委員会」を立ち上げ、学生間の交流を目的とした、総合学園祭などの開催を検討します。
- f) 国際教養大学と連携し、Anbee大曲を会場に、高校生と大学生の交流を目的としたミニオープンキャンパスなどの開催を検討します。

### ②地域の魅力の再確認と誇りの醸成

#### (ア) 地域の魅力・自慢フォトムービーコンテストの開催【H29年度～】

移住を考えている人の中には、観光化されたものではなく、昔から行われていることや地域の名所、地域の人たちが楽しんでやっているような事に魅力を感じている方もいます。

そこで、地域住民が自分たちの住んでいる地域に自信と誇りを持ってPRを行い、地域の魅力を再発見していく取り組みとして「地域の魅力・自慢フォトムービーコンテスト」を開催し、自前のカメラやビデオカメラを使用して手作りの作品を製作、移住定住ブログやフェイスブックを通じて全国に発信します。

また、学校のふるさと教育の一環として、市内の小中学校・高校にも作品の応募を呼びかけます。子どもたちが製作監督となり、地域のことを調べたり、地域行事を取材することにより、ふるさとを愛する心を育てます。

(イ) 大仙市「地域の魅力再発見事業」による地域活性化（継続）【H28年度～】

地域協議会をはじめ地域住民との話し合いを実施し、それぞれの地域の活性化策について検討を行い、地域住民を主体として、行政と協働で地域の魅力を活かした次の事業を実施します。

**神岡地域**

事業名	住民参加型の全国500歳野球大会PR・応援事業
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県外のチームが不慣れな土地での不安を解消し、快適なコンディションで活躍できる環境を提供する。</li> <li>・ チームの日程に合わせて地域の観光を楽しんでいただく。</li> </ul>
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出場チーム、または家族の宿泊施設・練習会場・試合会場への案内、送迎。</li> <li>・ 観光ツアーの実施。</li> <li>・ 地域の特色を活かした弁当の販売。</li> </ul>

**西仙北地域**

事業名	「刈和野の大綱引き」関連事業～伝統継承と地域活性化～
内容	「刈和野の大綱引き」が抱えている課題解決を目的に、伝統継承と観光PR推進に取り組む。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ マンガ「綱引き物語」の作成。</li> <li>・ 地元生徒の当日作業への参加。</li> <li>・ 体験型大綱引きイベントの開催。</li> <li>・ 地域住民と協働のテレビCM製作 など</li> </ul>

**西仙北地域**

事業名	地域住民参加型映像制作発信事業
内容	<p>「自分が住んでいる地域で分からないところがある」「近所づきあいや繋がりが少ない」など課題解決のために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の魅力を地域の方に伝える。</li> <li>・ 地域の中の繋がりを感しながら地域を元気にする。</li> </ul>
具体的取組	「にしせん未来塾」のメンバーが中心となり、各集落を取材し、地元の人・物・文化財等を記録・紹介するための映像制作。

**中仙地域**

事業名	地域のにぎわいサポーター事業（コミュニティポイント制度）
内容	地域で行われる様々な活動に参加することによって、活動団体を支援できる制度を構築する。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミュニティポイント制度</li> <li>地域活動への住民参加をポイント換算し、貯まったポイントを応援したい団体へ寄付。（支援金交付）</li> </ul>

**中仙地域**

事業名	地域のにぎわいサポーター事業（「どんぱん節の里なかせん」活性化プロジェクト）
内容	組織の整備やどんぱん娘の育成、祭りの充実を継続し、地域内外への普及活動を行う。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どんぱん娘衣装（緋）の整備。</li> <li>・ どんぱん祭りへ施設入所者などの招待。</li> <li>・ どんぱん娘を核とした地域内外への普及活動。</li> </ul>

**協和地域**

事業名	「食」×「企画」による地域活性化
内容	地域の人が地域の素材を使って特産品開発を行い、商品化を目指す。販売促進やテストマーケティングを兼ねた企画イベントと併せて展開することで、差別化と継続的な売り込みを図る。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発した「きょうわ縁結びグルメ」をPRするため、グルメマップ制作。</li> <li>・ 各事業者で販売。</li> <li>・ 設備導入等に対する補助金交付。</li> </ul>

### 南外地域

事業名	檜岡古城と地域創生への道
内容	「檜岡城」を守る会（仮称）を創設し、地権者・行政・地域が一体となり「檜岡城跡」を活用した総合的な取り組みを実施する。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営団体の検討、設立準備。</li> <li>・案内ボランティアの育成。</li> <li>・城址内の環境整備。</li> </ul>

### 仙北地域

事業名	四季を通した史跡の里づくり
内容	数多くの地域資源を活用した四季折々の地域伝統行事の継承・復活及び活性化の場を創出する。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真山公園へ看板の設置など環境整備。</li> <li>・防風ネットの設置検討。</li> </ul>

### 仙北地域

事業名	女性部団体連合組織「（仮称）ふれあい交流さくまる会」の設立・連携事業
内容	地域内の女性団体が抱える課題解決とともに、払田柵真会や新規就農者の若者と連携する。情報交換の場を創出するとともに、仙北ブランドの確立、また首都圏との交流、農業体験の受け皿づくりを目的とする。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の農産物、加工品の販売。</li> <li>・研修会と交流会等の実施。</li> <li>・農業体験の受入検討。</li> </ul>

### 太田地域

事業名	ふるさとまるごと太田ランド
内容	地域資源を活用して太田の四季を体験するメニューを用意し、滞在・体験型観光を進める。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日帰り、宿泊プランに田舎体験を組み込む。</li> <li>・「体験メニュー」「レジャーメニュー」など、多様なメニューから利用者自身が選択。</li> <li>・各種体験を通じて太田を満喫してもらい交流人口の拡大を図る。</li> </ul>

### 太田地域

事業名	移動式ピザ窯を利用した地元農産物のPR
内容	「大仙市ブランド」の農作物を生み出すため、太田産の農産物の美味しさ、豊富さをPRし、知名度と生産力を高めていく。
具体的取組	太田の農産物をその場で味わっていただき、美味しさをPRするため、「ふるさとまるごと太田ランド」の「窯焼きピザづくり体験」を拡充する。

### 大曲地域

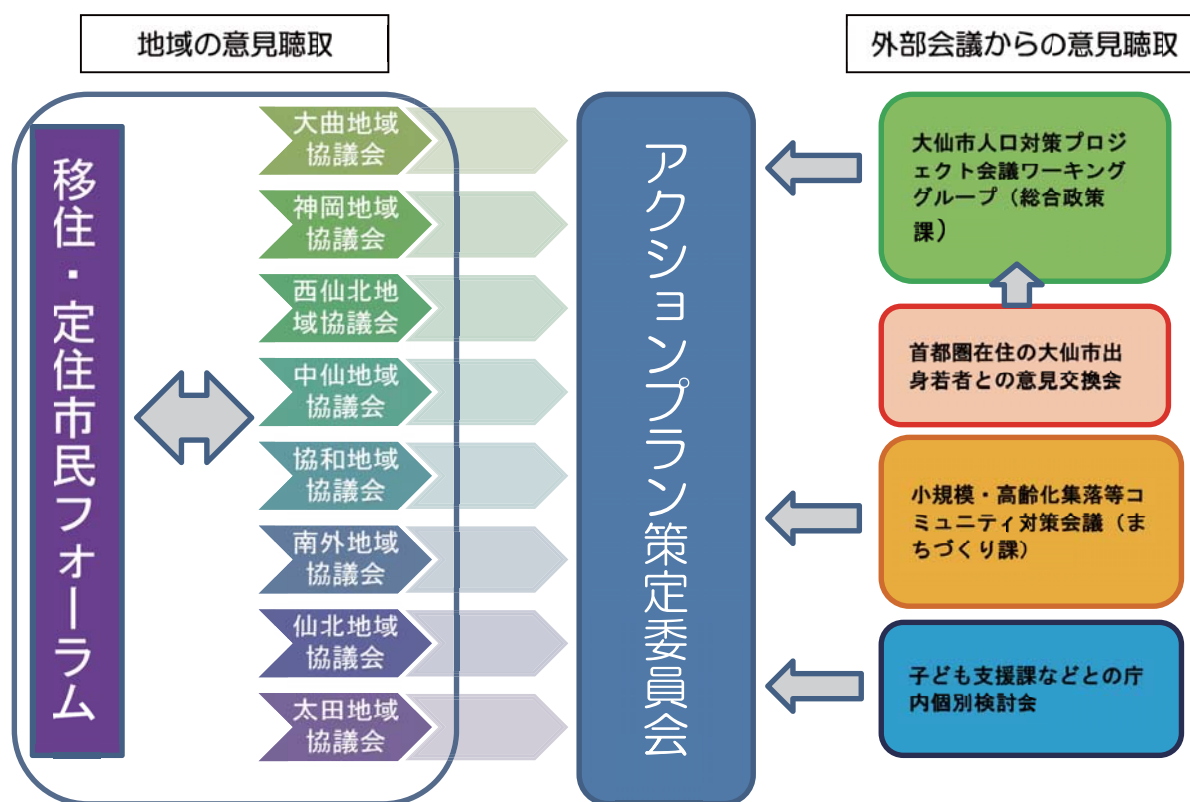
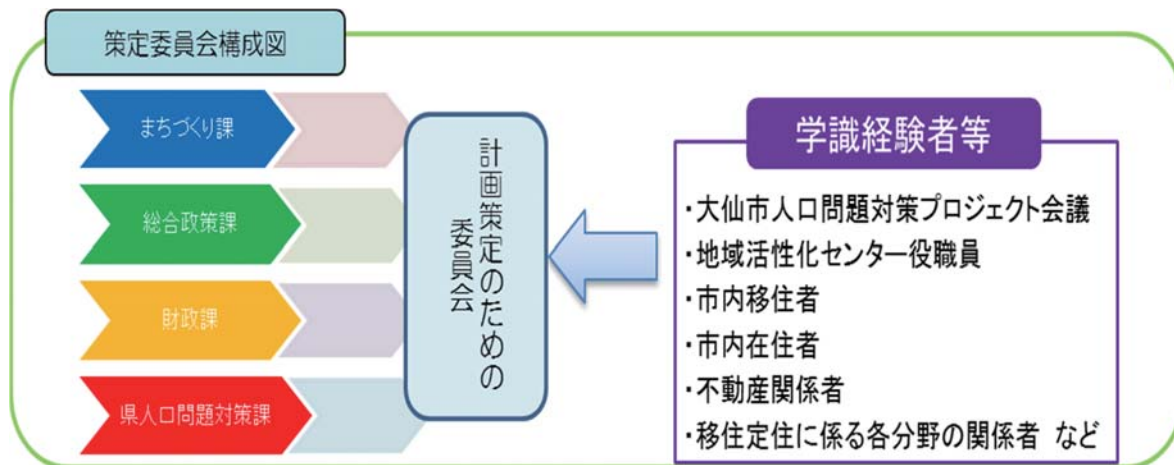
事業名	ヒカリオ広場活用事業
内容	広場活用に関する戦略会議等の立ち上げを提案する。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花火通り商店街との共同で、春夏秋冬でイベントを開催し人の流れを創出する。</li> <li>・広場が週末を中心に活用され、駐車場の利用促進にもつなげる。</li> </ul>

### 全域

事業名	だいせん観光モニターツアー事業
内容	全域の観光スポットを組み合わせた四季折々の観光ツアーを企画する体制、実行する体制を構築する。「大曲の花火」をはじめとする季節ごとの観光の目玉と、各地域の観光スポットや宿泊施設が結び付いたメニューを構築する。
具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光メニュー企画会議の開催。（観光スポットをまわるツアー、田舎暮らし・農業体験ツアー）</li> <li>・モデルツアーの実施。</li> </ul>

## 9. アクションプランの策定体制

アクションプランの策定にあたっては、策定委員会を立ち上げ「大仙市まち・ひと・しごと総合戦略」と整合性を図りながら、庁内関係課及び関係団体などと連携し本市の魅力の発見・発信と、若者や移住者を対象とした具体的な実施計画を策定しました。



## 10. 大仙市移住・定住促進アクションプラン策定委員会名簿

### ◆策定委員

	分野	所 属	役職	氏 名	備考
1		大仙市	副市長	老 松 博 行	
2	一般財団法人地域活性化センター役職員	一般財団法人地域活性化センター	事務局長	佐 藤 啓太郎	
3	都道府県担当者	秋田県企画振興部人口問題対策課	課長	真 壁 善 男	
4	学識経験者	大仙市人口問題対策プロジェクト会議	アドバイザー	森 田 克 彦	株式会社TMO大曲取締役
5	学識経験者	東京大学大学院新領域創成科学研究科	特任研究員	工 藤 尚 悟	
6	不動産関係者	秋田県宅地建物取引業協会 大仙地区協議会	幹事長	鈴 木 誠 一	
7	企業関係者	大曲商工会議所	事務局長	伊 藤 浩	
8	就農関係者	大仙市農業振興情報センター	所長	高 嶋 良 美	
9	観光部門関係者	大仙市観光物産協会	主任	柴 田 真希亜	
10	福祉部門関係者	大仙市社会福祉協議会	事務局長	伊 藤 均	
11	市内移住者・起業者	自営業		表 田 仁 美	
12	集落支援・子育て関係者	主婦		鈴 木 由美子	集落支援員
13	財政部門	総務部財政課	課長	舩 谷 祐 幸	
14	企画部門	企画部総合政策課	部長待遇 兼課長	五十嵐 秀 美	
15	移住定住部門	企画部まちづくり課	課長	高 橋 正 人	

### ◆一般財団法人 地域活性化センター

	所 属	役職	氏 名	備考
1	総務企画部 クリエイティブ事業室	課長代理	西 川 傳 和	
2	総務企画部 移住・交流推進課 企画・コンサルタント業務課	副参事	仲久保 茂 俊	

### ◆大仙市事務局

	所 属	役職	氏 名	備考
1	企画部 まちづくり課 だいせんライフ促進班	主席 主査	高 橋 靖 弘	
2	企画部 まちづくり課 だいせんライフ促進班	主査	佐々木 彰 人	



花火のまち  
大仙市